

長瀬小

楽しい大規模かくれんぼ



これがイチオシ

はねこ踊り 地域つなぐ

長瀬小学校には「はねこ踊り」という東日本大震災後、代々受け継がれてきた踊りがあります。すずめ踊りの原型であり、片手に日の丸が描かれた扇子を持ち、太鼓の音と共に跳ねたり、かけ声を出したりします。

扇子や体を回転させるタイミング、かけ声がみんなですらうと、とても格好いんです。運動会のほか、年に2回ほど地域の行事で披露しています。はねこ踊りは私たちの学校の伝統だけでなく、学校と地域のつながりを深める役割を果たしています。

学校名 亘理町立長瀬小学校
所在地 亘理町長瀬南原193の76
創立 1885年
電話 0223(36)2023
校長 渋谷 佳代
児童数 80人

長瀬小学校には「全校みまつ」という活動があります。1〜6年生が4つの班に分かれ、班ごとにさまざまなゲームなどをし、学年の枠を超えて仲を深める行事です。在校児童数が少ないからこそできる、みんなが楽しみにしている活動の一つです。活動は各班の6年生が内容を企画します。6年生は低学年から高学年まで全員が楽しめる内容を考えてくれるので、毎回全校みまつの間はあつという間に過ぎずまいます。

全校みまつ「わくわく」がったのが、全校かくれんぼです。全校児童が校内に隠れて、先生と鬼役の6年生が探す大規模なかくれんぼです。高学年は、低学年が鬼に見つからないように隠してあげたり、隠れやすい場所を教えてあげたりと協力し合います。「誰が見つけてくれるかな」「誰が最後まで見つからないかな」と待っている間もわくわくしました。



学年の枠を超え、ゲームなどとして楽しむ「全校みまつ」活動

編集委員 鈴木楓乃、鈴木身生、石龍義孝、丸字紗那 (6年)
指導教員 高野晃子

わが校わがまち スクール通信



今回は 赤井南小(東松島市) 福岡小(白石市)

思いやりの気持ちを育む

志波姫小



これがイチオシ

鉄棒遊び 多彩な技披露

志波姫小学校では、休み時間や放課後に鉄棒で遊ぶ児童がたくさんいます。中でも5年生は「こうもり振り下りや足かけ上がり、だるま回りや空中逆上がり」など体育で習った技を中心に練習しました。

学習発表会では、5年生が鉄棒でできるようになった技を映像で発表しました。1人技や3人技を披露し、多くの拍手をもらいました。

これから多彩な技ができるように、志小っ子みんなで鉄棒遊びを楽しんでいきます。

学校名 栗原市立志波姫小学校
所在地 栗原市志波姫沼崎新田64
創立 1923年
電話 0228(25)3233
校長 遠藤 俊哉
児童数 269人

3、6年生が福祉体験

志波姫小学校の3年生と6年生は、地域にある栗原市社会福祉協議会志波姫支部と連携して福祉体験をしました。

3年生は、総合的な学習の時間に「ふれあいの輪を広げよう」というテーマで、視覚障害のある人の支えなどを学びました。日本盲導犬協会仙台訓練センターの職員を招いて盲導犬の歩行訓練などを体験。目の不自由な人が歩く時に用いる白杖体験もして、白杖を使って生活することがどれだけ大変かを実感することができました。



福祉体験で盲導犬体験に参加する3年生
宮城マックスと車いすバスケットをする6年生



編集委員 佐藤由彩、西屋琴雪、小野寺燈障、佐藤柊斗、高橋陽葵、岩瀬菜々美 (6年)
指導教員 渡辺諒

6年生は、志教育の一環として、車いすバスケットボールチーム「宮城マックス」の選手と車いすバスケットをしました。車いすバスケットのルールを教えてもらい、実際に1対5で試合もしました。試合を通して、車椅子の操作の難しさを感じながらもパラスポーツの楽しさを体験することができました。

3年生、6年生とも、相手を思いやる気持ちの大切さや障害のある人との違いを学ぶことができました。

「こどもの日」の5日、宮城県東松島市大曲で、恒例の「青い鯉のぼりまつり」(実行委員会主催)があった。東日本大震災で犠牲になった子どもたちを追悼するため、約500匹の青いこいのぼりが青空を泳いでいた。まつりは末弟の律ちゃん(当時5)と母、祖父母を津波で亡くした同市の伊藤健人さん(33)が、追悼の気持ちを込めて2011年5月に自宅前に青いこいのぼりを掲げたことをきっかけに始まった。毎年こどもの日(5月6日朝刊より)



青いこいのぼりを楽しむ来場者

子ども ニュース 河北新報から

伊藤さんは「今年は律が二十歳になる年で、『空から見守っていてくれ』という気持ちで掲げた。これからも未来に向けて希望を掲げるまつりであり続けたい」と語った。

東松島「青い鯉のぼりまつり」

500匹希望の未来へ泳ぐ

本のプロ 推しの二冊



ともに前へ！ 伊達武将隊奮闘記

佐々木ひとみ 作 新日本出版社



活躍の裏に葛藤や努力

仙台おもてなし集団「伊達武将隊」が多くの人に親しまれ、活躍するまでの15年の軌跡と、本人たちの葛藤や努力、それを支え励まし続けている人たちの奮闘記です。

ところで、皆さんは伊達武将隊に会ったことがありますか？ 私は青葉城跡で武将隊の演武を何度か楽しんだことがあります。それからラジオも毎週聴いているので、すっかり親しみを覚えています。

今や仙台、宮城になくはな

らない存在ですが、そこに至るまでの喜びや戸惑い、困難、悲しみを乗り越えてきた経緯が詳しく書かれています。東日本大震災後も宮城を元気づけてくれたこと、政宗様の言葉一つ一つに共感し、読んだ後に胸が熱くなりました。

「伊達政宗として生きる」覚悟は、ふるさと宮城への私たちの思いそのものです。この本で伊達武将隊を知ってほしいです。中学生から。

(宮城県図書館 藤田寛子)